

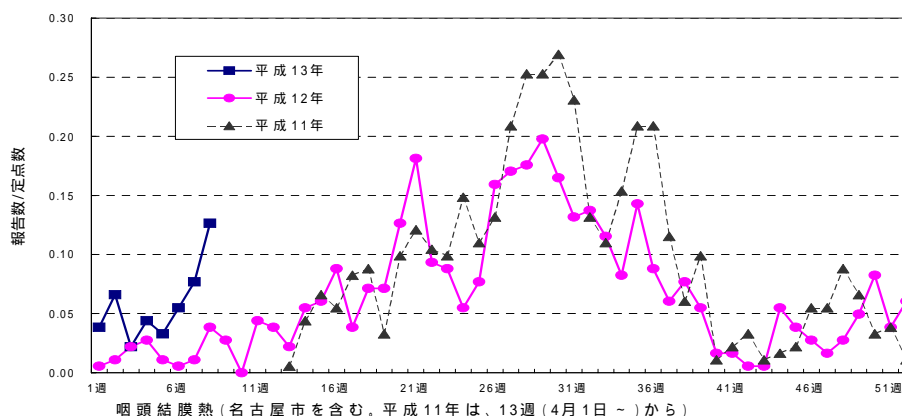
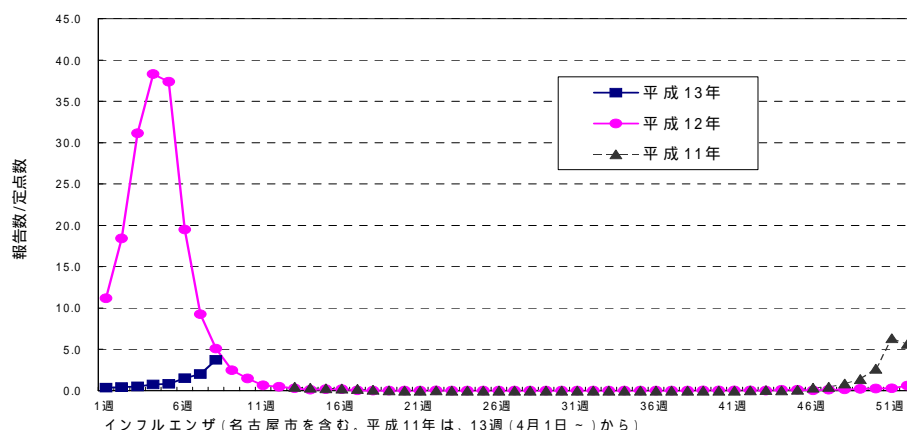
# 愛知県感染症情報

## 平成 13 年第 8 週（2 月第 3 週）

（コメント）

インフルエンザは、流行期に入ったので注意してください。インフルエンザについての詳しい説明については、愛知県衛生研究所のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）をご覧ください。

感染性胃腸炎、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎及び咽頭結膜熱は、報告数の多い状況が続いています。



（先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ インフルエンザ Fl uA\* ( + ) の親子例あり ( 1 歳女、30 歳女 )  
( 一宮市 あさのこどもクリニック )

注 ) Fl uA\* : A 型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

- ・ 病原性大腸菌陽性者 ( 0-15 11 ヶ月女、0-111 6 歳女、0-142 8 ヶ月女 )

カンピロバクター陽性者 16 歳男

マイコプラズマ陽性 2 歳男

糞便アデノウイルス陽性 4 歳男

- （尾西市 城後小児科）
  - ・ インフルエンザ A 3歳女 熱性けいれん（初発）を伴った。  
（一宮市 平谷小児科）
  - ・ インフルエンザここ3週横ばい。水痘散発している。  
（新川町 三輪医院）
  - ・ インフルエンザ FluA（+）15名、仮性クループ目立っています。  
溶連菌増えてきました。  
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）
  - ・ 感染性胃腸炎が増加してきています。水痘、流行性耳下腺炎の流行は続いています。インフルエンザ 5名見られました。（FluA、OIA\*（+））  
（江南市 みやぐちこどもクリニック）
- 注）OIA\*：A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する迅速診断キットの一種。ただしA・B型の区別はできない。

● 尾張東部地区

- ・ A型インフルエンザは10名ですが多くは幼児です。乳幼児の感染性胃腸炎はロタ陽性が多く、カンピロバクター腸炎2名（9歳女、11歳男）。A型インフルエンザのうち1名（2歳男）は、ワクチン1回接種済でした。  
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
- ・ 今週に入ってインフルエンザ4例（いずれもFluA（+））（4歳女、10歳女、30歳男 全てアマンタジン\*著効。1歳11ヶ月女児は複合型熱性痙攣合併のため入院（経過は良好とのこと））  
幼児、学童での溶連菌感染症、伝染性紅斑流行あるようです。  
成人の嘔吐、下痢多くみられますが、1～2日で軽快傾向。  
（尾張旭市 佐伯小児科医院）  
注）アマンタジン\*：A型インフルエンザ治療薬
- ・ インフルエンザ 成人を中心に散発。  
（南知多町 医療法人大岩医院）
- ・ 流行性角結膜炎（+）  
（美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院）
- ・ 今週はインフルエンザがみられました。  
（春日井市 かちがわ北病院）
- ・ インフルエンザが少し流行してきた。（A＞B）  
（小牧市 小牧市民病院）
- ・ アデノウイルス感染症が続いています。  
（小牧市 志水こどもクリニック）

- ・ 咽頭結膜熱（5歳女）  
（小牧市 鈴木小児科）
- ・ 流行性耳下腺炎と水痘同時に罹患 4歳男  
（東海市 小児科ハヤカワ医院）
- ・ 下痢を伴うインフルエンザ A（+）の患児を散見する。  
（東海市 東海市民病院）
- 西三河地区
  - ・ インフルエンザ FluA（+）3名（1歳男、3歳男、9歳男）3歳男は、予防接種済み。  
インフルエンザ OIA（+） 30歳女  
（豊田市 保見診療所）
  - ・ ディレクティジェン FluA 陽性（2歳女、1歳男、1歳女）  
（豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック）
  - ・ 下痢 E.Coli 0-25（1歳男、ペロ毒素（-））  
インフルエンザ A 15歳女  
水痘 生後3ヶ月女  
（豊田市 やふそ小児科）
  - ・ 5歳女、8歳男 兄妹インフルエンザ。兄はディレクティジェン FluA（+）、妹は（±）  
（岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院）
  - ・ OIA 陽性児増加中  
（岡崎市 花田こどもクリニック）
  - ・ 0-3（+）9ヶ月男  
A型インフルエンザ FluA（+）（3歳男、5歳男、6歳女、10歳男）  
マイコプラズマ肺炎 7歳女  
（岡崎市 にいのみ小児科）
  - ・ インフルエンザ A 3歳男、7歳女、17歳女（全員 FluA（+））  
インフルエンザ B？（FluA（-）、OIA（±）） 16歳女  
（岡崎市 粟屋医院）
  - ・ インフルエンザ 2名 FluA（+）  
（岡崎市 永坂内科医院）
  - ・ 乳幼児の嘔吐下痢症増加傾向（ロタウイルス感染症もあり）  
（碧南市 永井小児クリニック）
  - ・ 感染性胃腸炎がまだ多いです。  
伝染性紅斑の受診がひどい。関節痛を訴える者もありました。  
（知立市 宮谷クリニック）

- ・ インフルエンザ 11 例 （ 3 例は FluA 陽性・その他は家族 ）  
乳児嘔吐下痢症が増加。  
（ 西尾市 やすい小児科 ）
- ・ 流行性耳下腺炎 6 歳女 予防接種済み。  
水痘 4 歳女 予防接種済み。  
今週も水痘、感染性胃腸炎多し。  
（ 西尾市 山岸クリニック ）
- 東三河地区
  - ・ 感染性胃腸炎が、まだ流行中です。  
（ 豊橋市 こどもの国大谷小児科 ）
  - ・ インフルエンザ 44 名はすべてインフル A クイック陽性者とその家族です。予防接種済の患者の反応は、未接種者に比べて陽性反応は弱い傾向があります。  
（ 豊橋市 野村小児科 ）
  - ・ 1 歳（男）発熱 眼脂。結膜炎 4 日目、アデノチェック（+）  
（ 蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院 ）

（ 1～3 類感染症の発生状況 ）

細菌性赤痢患者 1 名。

豊田市保健所から報告の 24 歳女。2/21 発病、2/21 初診、2/24 診定。  
菌型は、ゾンネ 相。タイ渡航歴あり。

（ 全数把握の 4 類感染症の発生状況 ）

髄膜炎菌性髄膜炎患者 1 名

#### ◆ 病原体検出情報

学級閉鎖となった小学校からの検体より病原体の検出がありました。

- ・ 2 月 20 日採取 一宮保険所管内の検体 10 件中 3 件から A ソ連型インフルエンザが分離。
- ・ 2 月 21 日採取 瀬戸保険所管内の検体 10 件中 8 件から A ソ連型インフルエンザが分離。

第 6 週（平成 13 年 2 月 5 日～2 月 11 日）の 4 類感染症の全国状況  
感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年にくらべかなり多くなっている。感染性胃腸炎は宮崎県で定点当たり報告数 27、石川県で 20、宮城県で 19、鳥取県で 17 と多くなっている。麻疹は例年の同時期とくらべて定点当たり報告数がかなり多く、とくに高知県では定点当たり報告数が 3.5 となっており、大分県でも定点当たり報告数が 1 を超えている。これに伴って基幹病院定

点より報告される成人麻疹も増加しており、高知県では 14 例の報告があった。麻疹（成人麻疹を除く）の年齢階級別では 1 歳が最も多く、次いで 7 ～ 12 カ月に多かった。成人麻疹は 18 歳～ 29 歳、35 ～ 39 歳、45 ～ 49 歳の年齢階級にみられ、26 例中 14 例は 10 代の患者であった。流行性耳下腺炎と水痘も過去 5 年の同時期と比較して、定点当たり報告数がかかなり多くなっている。水痘は宮崎県で定点当たり報告数 8.1 と多く、鳥取、山口、愛媛、福岡、沖縄の各県でも定点当たり報告数が 4 人を超えている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数 5.7 、熊本県で 3.9 と多くなっている。インフルエンザは全国平均の定点当たり報告数が 2.1 であった。咽頭結膜熱は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数 5.5 、香川県で 4.7 と多くなっている。

（ Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

2001年1月26日号（76巻4号）

ウガンダのエボラ出血熱のその後：1月23日時点でグル地区で新しく1例確認されたが他地区に波及した事実はない。WHOはウガンダ旅行に制限の必要はないと発表。

ウイルス性出血熱：前号で報告した、コンゴ共和国における集団発生の流言のその後：WHOと国境なき医師団などの調査から単なる流言と判明。現地ではウイルス性出血熱の発生時の対策について患者看護に際して守るべき注意事項を徹底中。

マラリア：アフリカ旅行者。近年アフリカからの帰国者にマラリア発病者頻発。年間で数千人以上で（特にドイツ、スペインへの帰国者）、現在季節的には年末から雨期に入る南アフリカでの感染に注目される。WHOは予防内服用にメフロキンかドキシサイクリンを推奨しているが副作用などの問題もあり専門医の注意が必要である。滞在予定先のマラリアの流行、予防内服に関する情報が重要となる。

ポリオウイルス：2型ワクチン由来株の伝播。エジプト。ポリオ根絶計画の実施の結果1991年には南北アメリカ、97年には西太平洋地区、98年には欧州地区で野生株ウイルスの根絶宣言が発表されたがインド亜大陸やアフリカではいまだに野生株が常在している。ポリオウイルス常在状況についてはワクチン接種者からの周囲へのワクチン株の伝播状況が貴重な情報であり、本報はエジプトにおける調査結果の概略である：88年から93年、32例のポリオ2型ウイルス陽性患児が登録され全例ワクチン株由来であった。同国ではポリオ1型と3型の野生株が常在中で今後の対策が急務となっている。

デング熱/デング出血熱：チェンマイ宣言。00年11月20-24日、タイ・チェンマイで41カ国、700人以上の専門家による会議が開催され予防・環境対策を主体とした今後の対策に関する宣言が発表された。

インフルエンザ：01年1月。カナダ：B型、香港：A型とB型。ノルウェー：A型。  
1月19-25日届出疾患：なし。

2001年2月2日号（76巻5号）

BCG：最近のBCGに関する世界的な状況。結核予防目的でBCG接種は世界的には出生後早い時期に接種：乳幼児期の重症結核予防。アフリカ地区（全地域で実施、接種率66%）、南北アメリカ（30カ国で接種率97%、米合衆国では接種していない）、東地中海地区（21カ国で接種率89%）、欧州地区（34カ国で接種率89%）、東南アジア地区（10カ国で接種率97%）、西太平洋地区（18カ国で接種率94%）となっている。追加接種：小学校入学時のツ反陰性者やBCG痕跡ないもの、新兵などを対象としている国が多い。禁忌：HIV陽性女性からの出生児が禁忌となっている国が多い。副作用：BCG菌の全身感染（多くは免疫不全による）は百万接種あたり5以下、骨髄炎は百万あたり35例となっている。結核の重症感染予防として乳幼児期のBCG接種は予防接種拡大計画の一環として重要である。

インフルエンザ：01年1月。アイスランド、ハンガリー、日本、ノルウェー、スロバキア、スイス、英国、米合衆国。いずれもA（H1N1）主体で一部H3N2とB型。  
1月26-2月1日届出疾患：コレラ。南アフリカ、ブラジル、ペルー、メキシコ。

## 愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

沈丁花の香が漂うようになり、年度末をひかえ忙しい季節となりました。いつも貴重な情報を有難うございます。2月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：インフルエンザの発生は相変わらず少く、ひょっとして季節はこのまま春になってしまうのではないかと思ったりしていますが、先生方からのお手紙も1例のみ（国立病院伊藤先生）、ほとんどなし（城北病院渡辺先生）、A型インフルエンザが漸く増加傾向、生後2ヵ月の低月齢児が罹患、合併症はクル-ブ、気管支炎（三菱病院岩間先生）、A型インフルエンザがポツポツ（労災病院山田先生）、インフルエンザワクチン接種後のインフルエンザ罹患児が割にいる（大同病院水野先生）などです。気道感染症としては入院を要する仮性クル-ブと細気管支炎、RSウイルス感染症の発生が続き（第一日赤有吉先生、国立・伊藤先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生）、マイコプラズマ感染を含む肺炎・気管支炎も相変わらず発生しています（千種区今枝先生、大同・水野先生）。ウイルス性胃腸炎・感冒性嘔吐下痢症の発生も続いていますがロタウイルス陽性例と陰性例が混在（ロタウイルス陽性がやや多い？）がしているようで、入院例も目立っています（第一日赤有吉先生、国立・伊藤先生、城北・渡辺先生；白色便下痢が多くなりロタ、アデノ陽性例が目立つ、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。乳幼児や学童でインフル陰性で発熱が目立つ感冒が発生しています（千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）。溶連菌感染症（三菱・岩間先生、労災・山田先生）、ムンプス（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生；髄膜炎合併例が目立つ）などのお手紙も目につきました。千種区今枝先生からは日進市のワクチン未接種の10歳児が典型的な麻疹に罹患したとのご報告でした。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、溶連菌感染症、水痘、手足口病それぞれ散発中、江南市昭和病院西村先生からは水痘、ムンプス、溶連菌感染症が目立ち咽頭結膜熱の入院例と肺炎（CRP低い）が多い、瀬戸陶生病院山口先生からはインフルエンザA、ロタウイルス感染症ともになく、ムンプスと水痘がパラパラ程度で非ロタウイルス性の嘔吐下痢症少数例入院、常滑市民病院上田先生からは溶連菌感染症、手足口病、ウイルス性胃腸炎が流行中でインフルエンザA型2例、細気管支炎や突発疹、アデノウイルス結膜炎の高熱による要入院例ありとのお手紙です。

3. 三河地区：豊田地区からはインフルエンザAが散発しているがワクチン接種者からは出ていない、ロタウイルス感染症の要入院例あり、EBウイルス感染症あり、マイコプラズマ肺炎散見（トヨタ病院木戸先生、加茂病院梶田先生）、岡崎市民病院系洲先生からはロタウイルスを中心とした感染性胃腸炎散発、知立市近藤先生からは嘔吐性感冒（学童で高熱と咳を伴う例と乳幼児で下痢主体の例あり）、インフル陰性の高熱の感冒、溶連菌感染症、細菌性下痢（サルモネラ、病原性大腸菌O18）、刈谷市田和先生からは溶連菌感染症と感染性胃腸炎散発中でインフルエンザ様疾患3例（生後10ヵ月～4歳で同胞例と友人、1例からインフルA陽性、豊橋市からは溶連菌感染症、嘔吐下痢症、水痘（市内宮澤先生、長屋先生）のお手紙でした。

4. まだまだインフルエンザ要注意の季節です。先生の地区のインフルの年齢、主症状、ワクチン接種状況など是非お知らせください。有難うございました。